

2015 秋

私たちは東北を忘れない

結コンサート in 伊深

～ ご縁がつながりたがる縁(〇) ～



2015.10.24

於 伊深小学校 体育館

プログラム

胡弓演奏	『祈り』	石田音人
詩朗読	『今日からはじまる』	いのこ福代
胡弓・石琴演奏	石田音人	
歌とダンス	『釜石小学校校歌』	歌：八竜リパティバンド
	『ともだちになるために』	ダンス：玉田弘子
	『すみれの花咲くころ』	他
絵本朗読	『海のいのち』	いのこ福代
胡弓演奏		石田音人
ダンス		玉田弘子
みんなで歌おう	『ふるさと』	全員
	他	

◇出演者紹介◇（敬称略）

【いのこ福代】

8名で「劇団うりんこ」を創立し、33年間在籍。「うりんこ」在籍中は創造委員長として作品創造を担う傍ら、俳優として多数の作品に出演。作品「グリックの冒険」で全国児童演劇新人賞受賞。退団後は演出・朗読指導、他分野との共演等、多彩な活動を展開。東日本大震災後は「音つむぎネット」の仲間と7回にわたりボランティア公演にでかけ、「結コンサート」を開催し、東北の応援を続けている。2014年度に東海3県の優れた演劇人をたたえる第18回松原英治・若尾正也記念演劇賞を受賞。

伊深小学校では、昨年度より、豊かな表現力を育成するための読み読みの講師としてお迎えしている。

【石田音人】

日本の伝統楽器、胡弓の演奏家。古典胡弓を澤田孝子、津軽三味線を菊池栄蔵に師事。
1997：愛知県芸術劇場コンサートホールにて愛知フィルと共演
2001：中国雲南省公演
2002, 2006：モンゴル公演
幻の胡弓「玲琴」「四弦大胡弓」「椰子殻沖縄胡弓」の制作など、多彩な胡弓の世界を広げる。また、4枚の胡弓オリジナルアルバムの出版、テレビ・ラジオ出演など幅広く活躍。2005年パチンコ大衆文化賞受賞。毎年、東海豪雨を胡弓で語り続け、能登・中越・中越沖地震被災地・佐用町豪雨被災地での支援コンサートを行ってきた。東日本大震災被災地演奏支援プロジェクト「おとつむぎネット」を立ち上げ、岩手・宮城・福島県の被災地で、12回40箇所以上の支援コンサートを行っている。

【八竜リバティーバンド】

15年前名古屋市で結成された男性2人、女性1人のフォークバンド。オリジナル曲を中心に、心に響く歌を歌い続け、愛知県内外で活躍している。被災地の菅原文子さんの詩「あなたへ」に作曲し、東北のボランティア講演に4回出かけている。
4th アルバム「いのちかなでる」好評発売中！

【玉田弘子】

1985年、玉田弘子モダンダンスグループ開設。90年より毎年発表会を開催。他分野との共演も多く、ユニークな活動を展開。東北のボランティア公演に2回出かけている。

【徳水博志】（次ページ参照）

今回、被災地の宮城県石巻市より講師としてお招きし、講演をしていただいたり、地域の皆様との懇談をしていただくことになっていましたが、体調を崩され、入院加療中のため、今回の講演は延期となりました。またの機会を楽しみにしたいと思います。

宮城県石巻市の雄勝小学校で「地域に根ざした教育」に取り組み、すぐれた教育実践を展開。東日本大震災後は、子どもたちの心のケアと復興教育・防災教育に取り組む傍ら、住民組織「雄勝地区震災復興まちづくり協議会」などでまちづくりにも熱心に取り組んでいる。活動拠点を石巻市雄勝町内の「雄勝ローズファクトリーガーデン」に置き、3・11の巨大津波で壊滅した石巻市雄勝町を「花と緑の力」で復興するために、復興プロジェクト「雄勝花物語」を立ち上げ、復興に尽力するとともに、防災教育・環境教育など幅広い活動を展開している。震災の語り部をしたり、全国各地から依頼を受け、講演をしたりもしている。

宮澤賢治の朗読いのこ福代さん・石田音人さんのコンサート

10月18日に胡弓奏者の石田音人君といのこ福代さんの朗読によるミニコンサートを行いました。石田音人君は私（徳水博志）の京都時代からの友人です。震災後に東北の被災地慰問を継続していて、雄勝町では3回目の演奏会となりました。今回は石田君の胡弓と三味線の演奏といのこさんの朗読がありました。宮澤賢治『注文の多い料理店』『雨にもマケズ』、立松和平『海のいのち』です。『海のいのち』は私のたっぺのお願いで、いのこさんが読んでくださった作品ですが、いのこさんの抜群の語りでその作品世界が私たち被災者の心に伝わってきました。
石田君、いのこさん！また来園してください。よろしくお願いします。

【いのこさんの朗読を聞いて】三陸に生きる私たち被災者は海とともに生きてきた住民です。『海のいのち』に描かれているように、海から一切の恵みを受けて、「千匹に一匹」の教えを守り、先祖から命を受け継いできました。『海のいのち』で描かれたお父の命も太一の命も、一切の命が海とつながっています。海は命の源であり、太一が出会った巨大なクエは海の命の象徴です。親のかたきを探し求めていた太一がクエに出会ってその穏やかな目を見たときに、太一は巨大なクエの命とお父の命はともに海で生かされた命であり、一つにつながっていることを直感的に悟ったのでした。だからこそ巨大なクエに「お父ここにおられたのですか」と呼びかけて、命を奪うことをしなかった、いや奪えなかったのです。そして、自然の偉大な命を奪おうと挑んだ太一はおのれの思い上がりを恥じて、一生誰にも語ることはしなかったのです。この作品から今の私たちは何を学ぶことができるのでしょうか。自然の力を人間が造った構造物で制御しようとする雄勝湾の巨大な防潮堤建設は果たして正しい判断でしょうか。人間は自然の一部であり自然に生かされた存在であるという事実を忘れた、傲慢な考え方ではないでしょうか。立松和平の『海のいのち』は3.11後の私たちに多くのことを教えてくれているような気がします。

徳水博志さんの『雄勝ローズファクトリーガーデン日記』ホームページより

